

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の定着とタブレットの有効活用に向けた教員研修会の実施	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用が進んだり、互見授業で情報を共有したりして、分かりやすい授業に向けて多くの取組が行われている。各教科・科目の担当者は生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の展開が求められる。また、生徒に自ら学習計画を立てて粘り強く実行し、自身の学習を評価(チェック・分析)し、次の学習に生かすことができる(改善)調整力を身に付けさせることも求められる。</li> <li>生徒が1人1台タブレットを貸与され、それを授業等で活用するためには、教員間でアイデアを出し合ったり、専門家から学んだりする機会が必要である。</li> <li>基礎力診断テストにおいて、義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が全体で約47.7%を占め、その中でも最低レベルのD3ゾーンに2学年で8.6%(昨年度5.6%)、3学年で11.4%(昨年度8.7%)を占めている状況であり、著しい学力の低下が見受けられる。その原因として家庭学習時間が0分の生徒の割合が34.8%(昨年度27.0%)と多いことが関係していると考えられる。</li> </ul>	
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析	教員研修の実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全生徒を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。</li> <li>Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を30%以下とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの有効な利活用や評価について学ぶ教員研修会を3回以上開催する。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定着観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付ける。</li> <li>朝学習を校時に入れ、年間を通して学習時間を確保し、家庭学習を行う習慣付けのきっかけとする。</li> <li>D3だった生徒に対して個別指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師によるマイクロソフトのformsやjamboard等の使い方を学ぶ研修会を開催する。</li> <li>グーグルクラスルームを活用した授業の取組を紹介するなど、情報共有する研修会を開催する。</li> <li>ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSは、スマートフォンの普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如による事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にSNSで写真や動画を挙げてしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。スマートフォン使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。</li> <li>交通事故件数は、昨年度は7件発生した。登校時に自動車と接触する事故が最も多い。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からない。また、加害者になるとも限らない。命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていこう指導していかなければならない。</li> </ul>	
達成目標	SNS上の指導件数	交通事故件数
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間報告件数 5件以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生件数 5件以下</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会毎にSNSに関する指導、情報提供</li> <li>「心」の教育、モラルとマナーの指導</li> <li>「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施</li> <li>校風安全委員による対策等検討会の実施</li> <li>個別指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各集会毎に交通安全指導</li> <li>自転車点検による安全意識の向上</li> <li>事故発生時の状況や場所の教室掲示</li> <li>校風安全委員による対策等検討会の実施</li> <li>交通安全教室の実施(1年生)</li> <li>個別指導</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	よりよい勤労観・職業観を身に付けさせ、主体的に進路を選択し決定できる力を育む	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない現状がある。</li> <li>進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約130名が民間企業への就職を希望している。</li> <li>民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、令和4年度:2人、令和3年度:8人、令和2年度:0人、令和元年度:3人、平成30年度:4人であった。</li> </ul>
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.9回以上)	新型コロナウイルス影響が不透明であり、求人縮小の影響を考慮して4人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。</li> <li>進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。</li> <li>3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。</li> <li>生徒用タブレットを有効活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各企業が求める人物や適性などの情報を確実に生徒に伝え、意識の向上を図る。</li> <li>適性検査を実施し、その結果より本人の適性、能力について考えさせ、進路選択に生かす。</li> <li>面接時に本人の長所や考えを確実に伝えられるように指導する。</li> <li>多くの先生方から面接指導が受けられるように指導計画を立てる。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会、尚美展、球技大会などの学校行事に対する満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施しているが、生徒議会の活動が十分とはいえない。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。</li> <li>部活動等への参加は活発で、昨年度末の部加入率(生徒会を含む)は99.7%(兼部を含む延べ人数)でほとんどの生徒が何らかの部に加入している。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部見受けられ、退部者は約38名(内12名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。</li> </ul>	
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	退部する生徒数
	85%以上	40名以内
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見の集約に努め、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う基本的な感染対策の観点も踏まえての活動、および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。</li> <li>各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。</li> <li>各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。</li> <li>退部を考えている生徒に対して適切な指導を行い、各顧問と連携を図りながら、部の継続、生徒の適正に応じた転部を勧め、部活動の活性化と充実に努める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化	
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。</li> <li>・令和4年度より、会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催している。</li> <li>・PTA各行事への参加者数は現状では少ない。</li> <li>・各委員長、副委員長が中心となり委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。</li> <li>・令和4年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を図っている。</li> </ul>	
達成目標	PTA行事への参加者数	総会の出席者
	前年度より10%増	出席率30% (前年度より10%増)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページにPTAページを開設。</li> <li>・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。</li> <li>・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。</li> <li>・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う。</li> <li>・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)